

資源状況に応じた種苗放流の推進

〈ニゴロブナ栽培漁業推進事業〉 事業費:41,889 千円 補助金:27,926 千円
(補助先:(公財)滋賀県水産振興協会)

～事業の背景～

琵琶湖の固有種で、ふなずしの原料であるニゴロブナの漁獲量は、平成元年ごろは200トン近くありましたが、一時18トンにまで落ち込みました。しかし、種苗放流など様々な取組みにより徐々に増加し、平成23年以降には50トン近くまで回復してきました。

～事業の内容～

水田を活用した種苗放流(全長20mmサイズ)と、晩秋期の琵琶湖沖合への秋稚魚放流(全長120mmサイズ)の2種類の放流を行っています。ニゴロブナの種苗生産・放流は(公財)滋賀県水産振興協会が行っています。

～事業の実績～

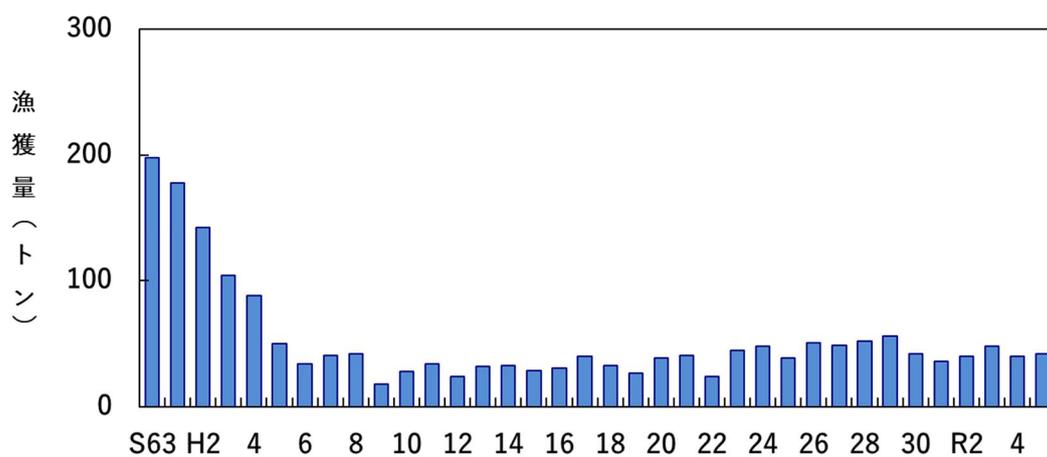
令和6年度は、ニゴロブナ種苗の全長20mmサイズを805.0万尾、120mmサイズを87.8万尾放流しました。



水田育成種苗(全長20mmサイズ)の流下



秋稚魚(全長120mmサイズ)の放流



【琵琶湖におけるニゴロブナ漁獲量の推移】

〈多様な水産資源維持対策事業〉 事業費:12,646 千円 補助金:8,430 千円
 (補助先:滋賀県漁業協同組合連合会)

～事業の背景～

琵琶湖固有のサケ科魚類であるビワマスと、天ヶ瀬ダムなどにより海からの天然遡上がなくなったウナギについて種苗放流を実施し、多様な水産資源の維持を図っています。



高島市マキノ町の小学生参加による
 ビワマス稚魚放流 (知内川)

～事業の内容～

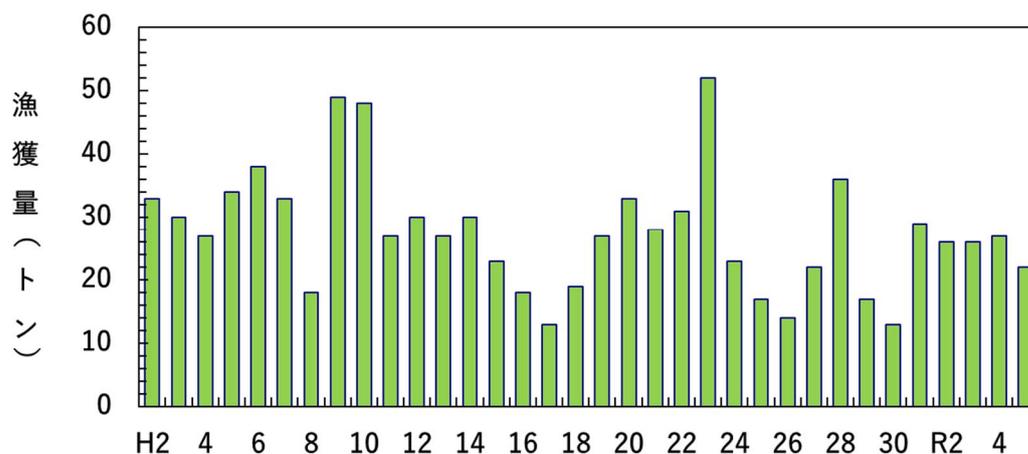
10月から11月かけて特別採捕したビワマス親魚から採卵してビワマス種苗(全長60mm、体重2gサイズ)を生産し、3月に県内の主要河川に放流しています。また、ウナギ種苗(体重30gサイズ)を琵琶湖全域に放流しています。種苗の生産や放流は、滋賀県漁業協同組合連合会が行っています。

～事業の実績～

令和6年度は、県内の河川にビワマスの稚魚27万尾を放流しました。また、ウナギ種苗は1,000kgを琵琶湖に放流しました。



放流されたビワマス稚魚 (知内川)



【琵琶湖におけるビワマス漁獲量の推移】

人工河川の運用や適切な資源管理によるアユ資源の安定化

〈人工河川管理運用事業〉 事業費:37,524 千円(委託先:(公財)滋賀県水産振興協会)

～事業の背景～

琵琶湖漁業の中心的魚種であるアユを安定的に供給するため、人工河川（→p. 82）を稼働させアユ資源の維持・増大を図っています。

～事業の内容～

産卵用に養成した親魚を9月上旬から9月下旬に安曇川人工河川に放流して産卵させ、ふ化仔魚を琵琶湖へ流下させています。令和5年秋、河川水温は、例年の産卵ピーク時の水温を大きく上回りました。この間に遡上したアユの多くが産卵に至らず、アユ産卵数が平年の2割程度となりました。令和6年秋には産卵親魚が少なく、河川高水温が連続発生する可能性があり、産卵量の現象が懸念されたことから、放流するアユ親魚を通常より8トン追加する緊急対策を実施しました。

また、少雨で天然河川に瀬切れが生じ、遡上したまま産卵できずにいる親魚を周辺の常水河川に放流して産卵させ、天然の産卵繁殖を助長する対策にも取り組んでいます。



令和5年秋の河川水温の推移

～事業の実績～

令和6年度はアユの資源回復対策のため、安曇川の人工河川に13.0トンの養成アユ親魚と3.1トンの天然アユ親魚、姉川人工河川に4.8トンの天然アユ親魚、合計20.9トンの親魚を放流しました。これにより、52.1億尾の仔魚を琵琶湖へ流下させました。



アユ親魚の放流（安曇川人工河川）